

sponsored by

タウンワーク
TOWNWORK



キャンパスライフ プラスワン
「Campus Life+1」特別インタビュー

夢の履歴書

全国の大学・短大・専門学校に通う学生の夢を応援する「Campus Life+1」。
今回はすでに夢に向かって動き出している、元Campus Life+1応募者にインタビュー。その足跡をご紹介します。

日本一の和太鼓奏者に 学生時代の経験が 夢を大きく後押しした

「人間が演奏するもので、こんなにも大きな音が出るんだと幼心に圧倒されたのを今でも覚えていました。衝撃でした」

体中に響く力強い音色、凛とした立ち姿、美しい所作……和太鼓を演奏するところを一度でも見ると、その姿に心を奪われる。そんな和太鼓に魅せられ、夢として追いかけている一人の若者がいる。昨年大学を卒業し、フリーの和太鼓奏者として活躍をしている浅野聰太さん。彼が和太鼓に出会ったのは、9歳の頃。祖母に連れていってもらった祭りで、演奏を見たことがきっかけだった。

「人間が演奏するもので、こんなにも大きな音が出るんだと幼心に圧倒されたのを今でも覚えていました。衝撃でした」

以来、和太鼓に夢中になつた浅野さん。大学では和太鼓サークルに所属し、日夜練習に明け暮れた。

Campus Life+1が
夢の分岐点に！



浅野聰太さん
23歳

愛知県出身。フリーの和太鼓奏者として、いくつかのチームや団体に所属。日本全国で演奏を披露。

青春のすべてを和太鼓に捧げたと言つてもいいほどのめり込んだとか。そして2015年 Campus Life+1に参加。多数の応募の中から準グランプリを獲得。そして、この出来事が浅野さんの人生を大きく変えたと話す。

「副賞としてアメリカに2週間行きましたが、そこで現地で活躍する和太鼓奏者と交流を深めることができました。日本に住んでいないことを言い訳にせず、和太鼓の可能性をひたむきに追求していました。その姿に私は心を打されました」

将来への不安と葛藤
みんなの笑顔が勇気に

そして、浅野さんは大学卒業後、企業への就職という道を選ばず、フリーの和太鼓奏者としての道を歩むことを決意した。

「ギリギリまで悩みました。友人などの就職活動の話を聞くとすごく不安になつたこともあります。

それでも演奏を聞いて喜んでくださる方の顔を見ると、その笑顔を広げたいという思いが不安をかき消しました」

現在、浅野さんはソロ和太鼓奏者

者が集う「ZI-PANG」といチークや津軽三味線奏者とのチーム、和楽器バンドなどで活動を続けています。加えて、母校の大学で和太鼓部の顧問を務めているなど幅広く活動をしている。



公演の合間に練習に励む浅野さん。今年の秋にはニューヨークのカーネギーホールで演奏予定



アメリカ旅行中に和太鼓の演奏を披露。現地の人にも喜んでもらえた

浅野さんの夢の履歴書

- 2004年：祖母に連れられた祭りで和太鼓に出会う
- 2015年：Campus Life+1に出演
- 2016年：アメリカ旅行で現地の和太鼓奏者と交流を深める
- 2018年：大学卒業後、フリーの和太鼓奏者に